

## 連載長篇小説

巨人荒野

陽羅 義光

### 序文

長い長い経験から云うと、小説には「幸福な小説」と「不幸な小説」があって、本作は小生にとって後者の見本とでも云うべきものである。

かれこれ三十数年前になるが、本作は某大手出版社から（大袈裟でなく）鳴り物入りで出版の予定になっていた。

そのために小生は、三度の大幅改作を行っていた。

ところが出版の直前に某社は、社主の鶴の一声で急遽、全文芸書の出版中止を決定、本作を担当していた出版部長は退社してしまった。

宙に浮いた拙作は、その後（おそらく同情したのであろう）別の某大手出版社から声がかかったけれども、某社の規定は制作費の一部を作者が負担するという条件であって、生憎というか常時金欠病だった小生には無理な相談だった。

その後一部を同人誌に発表したりもしたけれども、評判になることもなく今日に至ってしまった。

その間さらに三度の改作を経て、今回全作家協会のホームページに載せてもらうことにした。

この機会に、当初より予定していた続編も書きたい。

なにはともあれこの不幸な小説が、些かなりとも日の目に当たることを願うばかりである。